



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	紀要とは何か
Author(s)	瀧川, 哲夫; Takigawa, Tetsuo
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 6
Issue Date	2002-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45624
Type	other
File Information	BISC006_001.pdf



紀要とは何か

留学生センター長

瀧川哲夫

国立大学の法人化という、よく見えない姿が間近に来ている今、あらためて、留学生センターという部局が発行する紀要の将来について考えてみる必要があるように思えます。

紀要は大学や研究機関の顔であると言われることがあります。紀要を手に取り、目次を眺めるだけでも、その組織にどのような研究者が所属しているか、その組織ではどのような学問が培われているかを知ることができるからでしょう。紀要が学会誌と大きく異なるところはそこにあると思います。

その意味で、紀要は二つの側面を持っているように思えます。組織所属研究者の研究論文集であるとともに、その組織の広報誌の役割を持っていることです。

これまでの紀要は前者の側面すなわち、学会誌的性格だけが強調されてきたように思えます。学会誌が少なかった時代はともかくとして、それでは学会誌の持つ公共性と客観性に到達することはむずかしいでしょう。そのために、紀要は学会誌に準じたものでしかないという否定的な評価を持つ人が多くなるのではないのでしょうか。

一方、後者の観点から見ると、紀要はそれを発行する組織の独自性を表現する媒体です。一組織が独自の予算を使って刊行する紀要には、学会誌と違って、非常に大きな自由度があります。それは学問的公共性から離れる自由度ではなく、その組織所属研究者の学問的な夢を掲載することができるという、学会誌の客観性から離れる自由度ではないのでしょうか。

紀要を読むことによって、その組織が育む学問の未来像が見えてくるようになってほしいと思います。学会誌的な紀要を否定的あるいは肯定的という二分的な反応でとらえる態度ではなく、大学の顔としての媒体を自由に演出していく態度があってほしいと思います。